

右舷灯

若い頃に離島ブームがあった。当時は高度経済成長の真っただ中。リュックを背負ったバックパッカーの若者が、離島にも大挙して訪れて、定住する者まで現われた。

筆者も離島航路の旅客船を追って、北は利尻島から、南は石垣島まで全国の島々を訪れたのが懐かしい。そうして各地で撮影した旅客船の写真を中心にして、「日本の旅客船」という自費出版本を発行したのは、もう40年余りも前のことである。

大学を定年退職して時間的な余裕ができたので、離島の旅を再開しようと思っていた矢先、新聞に奄美群島を巡る旅の全面広告がでていた。このツアーでは、与論島、沖永良部島、徳之島、奄美大島の4島を巡るとい

う。島の間の移動は、鹿児島と奄美・沖繩を結ぶ定期航路のフェリーを利用する。いわゆるアイランドホッピング旅である。しかも、20歳以上で20名限定の大人旅。若い頃は、安いユー

スホステルや民宿に泊まったものだが、さすがに年を重ねると、ゆったりとできる宿がいい。ツアーでは各島のいい宿を厳選し

離島の船旅

ているという。さっそくインターネットで検索してみると、すでに満席の日程が目白押しだった。よつあへ、2月下旬のツアーを予約することができた。

最初の島は与論島で、沖繩復帰までは、沖繩とあい面する最南端の島で、当時の若者には憧れの島だった。大阪から、鹿児島経由の飛行機で、3時間ほど

で到着した。コバルトブルーの海が美しく、干潮時だけ姿を現わす島に上陸したりと、島内観光を楽しんだ後、リゾートホテルでゆったりと過ごした。

翌日は、「フェリー波之上」で沖永良部島まで2時間の航海。宿は天皇陛下も泊られたという島一番のホテルだった。

3日目は「クイーンコラル8」で徳之島へ。戦艦大和の慰霊碑に手を合わせた。

最後の航海は「フェリーあけぼの」。ちょっとジャガイモの収穫期とあって、大盃のコンテナを積み込むのに手間取り、30分ほど予定より遅れて出港し、夜遅くに奄美大島に到着した。

こうして4泊5日の島巡りで、3隻の離島航路船に乗る旅ができた。定期船を乗り継ぐ離島の旅もなかなかよいものだ。

(池田良穂)